

\*\*\*\*\*ここから『電子耕』\*\*\*\*\*

隔週刊「75歳が送る農業文化マガジン『電子耕』 第43号

--農業・健康・食・図書・人物情報--

<http://nazuna.com/tom/denshico.html>

2000.10.12 (木) 発行 東京・ひばりヶ丘 原田 勉

<mailto:tom@nazuna.com>

\*\*\*\*\*発行部数 1301+71 部\*\*\*\*\*

<キーワード>

農業を中心として健康・食べ物・図書・人物・庶民の歴史をめぐる雑学情報を提供し、<読者の声>欄でお互いの意見交換の場を作りましょう。

<本誌記事の無断転載を禁じます、教育目的の転載も承認を求めて下さい>

投稿メールは原則として<読者の声>に掲載します。都合の悪い方は「載せないで」と明記して下さい。ペンネームの無い方は姓だけで載せますので、ご了承ください。内容は自己責任でお願いします。★字数は200～400字を標準とします。短い文章で簡潔に書く練習のつもりでお願いします。

---

目次

<読者の声>カミゾノさん、自転車にのってさん、田んぼのおばさん

<農業・図書情報>「日本的グリーンツーリズムのすすめ」農のある余暇

◎「75歳・私の健康報告・原田 勉」

<舌耕のネタ> 北朝鮮へ50万トンのコメ支援に思う

<農業文化情報>山崎農業研究所

経常研究会「水問題」第2回懇談会は10月28日(土)

<図書・情報>『遙かなる縄文の声』『縄文農耕の世界』の2冊

<農業・情報>「人と土の関わりを作る」その1 環境クラブ 増山博康

<農業・図書情報>近藤康男の「三世紀を生きて」第4回その1・

(10月号) 昭和農業恐慌下の農業経済学者・旺盛な著作(次号回し)

---

<読者の声>ここはメール交換の場です。編集者はコメントしない場合もありますがこれは、メールを無視したわけではなく、読者同士の交流にゆだねるという意味ですからご了承下さい。-----

◎ 投稿募集、「20世紀の記憶・忘れてならないもの」この100年の日本・世界のできごと、私の忘れられない記憶を募集します。

字数：500字以内。期待しています。締切：12月15日まで、いつでも

適宜に掲載します。お名前（ハンドネームでも可）年齢を明示して下さい。

---

<読者の声>

■9/29 カミゾノ☆サトコさん、「20世紀の記憶・忘れてならないもの」禪の話

「忘れてならないもの」

ヘンな話ですが・・・禪(ふんどし)です。

私は30歳の主婦ですが、夫とは禪が縁で結婚しました。

そもそも、夫はとても古風な物が好きでして、「昔の人の知恵」や「100%リサイクルの街だった江戸への憧れ」がとても強い人で、地球環境の問題などにもとても関心が高く、そういう点で話が合ったのが、お付き合いのきっかけでもありました。

仕事柄、机に向かって事務作業をする時間が長いものですから、独身時代から夫は腰痛がひどく、また、カラダを締め付けるゴム製品が大嫌いで、いわゆる「ブリーフ」とか「トランクス」などの、いま風の下着は、肌に合わなかったようです。じゃあ、下着はどうしているのかな?と思いましたら、「さらしを買ってきて、適当な長さに裂き、禪として腰に巻いている」との返事。

「禪を日常の下着としてつけている人」が、この現代に存在するなんて思ってもみなかった私は、大変にビックリしてしまいました。

「ゴム製品を使った今の下着に比べて、禪の着心地(?)は最高だけど、さらしを裂いただけでは、やはり腰回りがゴロゴロするので、腰痛もちには、少しつらいときもある」とのこと。

そんなとき、デートでデパートの「江戸の職人工芸展」なる催し物に出向き、いろんな工芸品を見ていたら、伝統工芸品の木綿の染め物が、反物で売っておりました。私は「これを買って禪を縫ったら、彼の腰痛もよくなるのでは・・・?」と思い、内緒で反物を買って帰りました。

さて。禪なんて、見たこともなければ、つけたこともない私。一体、ナニをどのようにして縫おうか思案にくれ、

思いついて、インターネットで調べてみましたところ、  
「禪屋」というホームページがありました。

<http://www.fundoshiya.com/>

本屋さんや図書館で、うら若き乙女(当時)が  
「禪についてあれこれ読んでいる」なんて姿は、  
考えただけでも恥ずかしいもの。こんなとき、インターネットなら、  
誰にも見られず一人きりでじっくり調査できるのですから、  
本当にありがたいなーと思ったものでした。

「縫い方」は書いてありませんでしたが、どのような物かがわかれば、  
あとは手縫いでなんとかなるもの。だいたいのサイズ検討をつけて、  
布を裁ち、チクチクと縫うこと数時間。2枚のステキな禪ができあがりました。

さっそくプレゼントすると、彼は大喜び。「家に帰ってつけてみたら  
サイズもピッタリ！ これで腰回りがゴロゴロしないで  
ゆっくり眠れる」とのことでした。

その後、結婚して以来、夫の下着は、すべて私の手縫いです。  
お正月用の「新しくおろす下着」に、純白のさらしを使って禪を  
縫うのも恒例になりました。我が家の物干し竿には、毎日、  
禪がヒラヒラと舞っています。

とまあ、ちょっと恥ずかしいエピソードではありますが、  
私にとっては禪やさらしの機能的なすばらしさ、日本人の風土と  
体型にあった姿形の美しさ・・・などを知ることができた体験でした。

昔の方にとっては「ただの下着」かもしれませんが、私には、  
パンツなどより禪のほうがよっぽどステキに見えます。それに、  
禪は「日本男児」という感じがして、格好良いではありませんか。

「禪をつけている」というと、何かと変人扱いされるご時世ですが、  
こんなにスバラシイ禪がどうかなくなってしまうように・・・  
と、影ながら祈っております。

カミゾノ☆

## ■9/29 カミゾノさん、(続き) 禪あれこれ

夫の禪は、すべて越中です。  
前述のホームページの「越中禪」のところに  
以下の紹介が載っていました。

「越中禪はゆるふんの魅力です。究極のリラックスです。」

六尺派もいちど越中褌を試してみてください。一度締めるとやめられなくなるといいます。長時間座り仕事をされている方、タクシー等の車のドライバーの方にもお薦めです。就寝用の下着としても最適です。究極のリラックスを味わってください。」

ということで、  
「長時間座り仕事」で腰痛もちの夫には、これがピッタリなのです。

お問い合わせのありましたサイズですが、これも ホームページに

「M サイズ ひもの長さ 130cm・前垂れの長さ 90cm  
L サイズ ひもの長さ 140cm・前垂れの長さ 100cm

ひもの幅は全て 2cm の幅に作ります。太いほうが、越中褌を締めた時に縄状になりにくく、肌のくい込み感が少ないです。前垂れの幅は全て 30cm となります。越中の場合ウエストのサイズはあまりサイズに関係ありません。ひもでウエストを調節できるからです。太めかなと思われる方は L を、普通から細目かなと思われる方は M をおえらびください。」

とあり、初めて作成したときには、この記述を参考にしました。夫は肥満ではないですが、体格はいいほうなので、L サイズ、ということにして  
ひも：幅 2 センチ、長さ 140 センチ  
前垂れ：幅 30 センチ、長さ 100 センチ

で作成しました。夫の感想は  
「まるで寸法を測ったみたいにピッタリだった」とのことで、以来、体型が変わっていませんので、いつもこのサイズで縫っています。

「禪屋」のホームページをご覧になったかどうか、わかりませんが、日本全国の「禪愛好家」の方からの感想が載っており、読むと面白いですよ。

「一度締めたらやめられない。」「気分が引き締まる。」

「1000年以上続いた文化・伝統を、わずか40〜50年で簡単に捨て、忘れても良いのだろうか？」

「非常時には、切り裂いて包帯にできたり、止血用の紐にできます。日本人の男性なら、旅行の際は必ず、一本鞆に入れるべきです。(旅行中に洗濯しても一晩で乾くし、たたむと、全くかさ張らない)」

などなど。

我が家には、禪用に買い置きしてあるさらしがありまして、禪を縫って余ったハギレは、刺し子にして、台所用のふきんとして使用しております。子供はまだいないのですが・・・赤ちゃんが産まれたら、さらしでオムツを縫いたいな、と思っています。

朝晩、肌寒い季節になってきました。

メールマガジンが長く続くように、と思っておりますので、あまりご無理をなさらぬよう、ご自愛くださいませ。

向き合って 栗の皮むく 夜長かな

では。

カミゾノ☆

●コメント：「越中ふんどし」は昔の思い出がたくさんあって、面白くもあり、悲しいこともありました。現在はほとんど見られなくなりましたが、戦時中の軍隊ではすべて禪でした。その干し場で盗まれたこともあり、虱の巣になって困ったこともありました。戦後入院したときも禪を丁字帯といたり、下帯とって持参するように指定されました。読者の皆さんも経験をお寄せ下さい。

=====

■9/30 自転車にのってさん、「記憶・責任・未来」『電子耕』への意見・感想

軍人になるしかなかった時代に「国のため」と信じて戦地へ行っていた父を、軍人であったという理由で否定するような世の中の風潮が残念に思えてきました。どれほど人の命を大切に、日本という国を大切に生きてきたかをまじかに見てきましたから。

(田んぼのおばあさん41号)

<http://www.nazuna.com/tom/2000/41-20000914.html>

・・・のことばを重く受け止めています。

今西祐行の作品に「一つの花」というのがあります。4年生の国語の教科書に載っています。この作品の主人公のゆみ子の優しいお父さんはコスモスの花を渡し、出征してかえってきません。優れた作品だと思います。しかし、そのどこにでもいた子ども思いの優しい日本人のお父さんたちは、大陸でいったい何をしたのか。畑でクワをふるわれる田んぼのおばあさんの思いと大陸で、南方で日本の軍人を小さい頃に目にし、今もその地で暮らしている多くの人々が日本を見る思いが、どこかで重なることはできないのかと考えます。そのためには、私たち日本人は何をすべきなのか戦後、50年以上たっても答えを見いだせずにいます。この8月、ドイツが政府と経済界で「記憶・責任・未来」という戦後補償の財団をつくりましたが、私たちの父からももらった記憶と責任を私たちはどう未来につなげられるのか、土を耕す、心を耕す意味で電子耕を読ませてもらっています。(戦後世代が語る2)

「自転車にのって」より

●コメント：今後もときどき寄稿してください。

=====

■10/10 田んぼのおばあさん、「麦の次は蕎麦」

初夏の大麦収穫に気をよくして蕎麦をまいたのが8月半ば。秋には新蕎麦を手打ちで・・・と、取らぬタヌキのなんとやらでうきうきと蕎麦刈りに行ったのですが、花畑のときにはあんなに一面の花だったのに黒い実は思いのほか少なく、1キロの種をまいて収穫も1キロくらいではないかと気落ちしています。なにしろ「蕎麦の絵本」首っ引きでの作業ですから心もとないことこの上ないのですが、懲りない面々がそろっているのか「こうなりや蕎麦茶でも枕でも！」などと訳の分からない励まし方で、干した蕎麦を眺めています。

麦の収穫に悪戦苦闘して農作業の大変さを一つは乗り越えたつもりでいますので、こうやってなにかを栽培してはつまづいたり転んだりしても何年かす

るうちには人並みの収穫を得られるようになるだろうと、気長にかまえるしかありません。

今月は稲刈りもひかえ（こちらは6年目なのでかなり余裕の心持ち。今年は豊作のようです）、またもお天気をにらんだ日々が続きます。とりあえず食べることに困らない生活ができることに感謝、そしてこの思いを子どもたちにも自然に伝えていかなくては・・・と思います。

田んぼのおばさん

（9月半ばに雷でPCがやられてしまいました。修理をしましたが、これまでの「電子耕」が消えてしまいました。バックナンバーとして見ることはできますが、こちらの受信トレイに取り込むことはできるのでしょうか？）

●コメント：稔りの秋です。蕎麦が少量なら、お茶もいいですよ。蕎麦茶として売っていますが、血圧を低く抑えるのに良いとって私も常用しています。

○編集補助者から

『電子耕』のバックナンバーをメールソフトの受信トレイに保存したい時は、まずメールソフトで新規メールを準備します。

宛先はご自分のメールアドレスとし、表題・件名は

<http://www.nazuna.com/tom/denshico.html>

の★バックナンバー（html版）の希望する号をブラウザで開いて、たとえば

<http://www.nazuna.com/tom/2000/42-20000928.html>

の最上段に書いてある『電子耕』No.42-2000.09.28号の部分を実際のカット&ペーストし、表題・件名とします。

つぎにブラウザで

★バックナンバー（テキスト版）

<http://www.nazuna.com/tom/txt/>

にある希望号のテキストファイルを開き、文面を準備した新規メールの本文にカット&ペーストします。それを送信するか、そのまま受信トレイに移します。

どうしてもメールソフトで保存する必要が無いときは、

<http://www.nazuna.com/tom/denshico.html>

の★バックナンバー（html版）を希望号開いてブラウザメニューの「ファイル」→「名前を付けて保存」でハードディスクの任意の場所やフロッピーに

htmlファイルのまま保存することをお薦めします。

バックナンバー（html版）は比較的新しいバージョンのブラウザで開けば行間が開いて読みやすくなる工夫がしてあります。

---

<農業・図書情報>「日本的グリーンツーリズムのすすめ」農のある余暇  
現代農業11月増刊号紹介（定価900円送料120円、農文協発行）

---

人生を耕す”農のある宿”自分探し、仲間づくり、自然な暮らしのよりどころ：事例11。これからは「何もない田舎」が面白い、その村を楽しむ術をもつ多くの人がいる：事例15。子どもたちに豊かな原風景と原体験を、遊びも学びも自然な暮らしの中で：事例3。21世紀の可能性など多彩。

■参考リンク

「田舎の本屋さん」の広場掲示板●0217書き込みのコメント欄

[http://www.ruralnet.or.jp/cgi-bin/shop\\_data/g\\_book2.cgi](http://www.ruralnet.or.jp/cgi-bin/shop_data/g_book2.cgi)

装丁者・石原雅彦さんの仕事紹介サイトに表紙があります。

[http://tamon.mdn.ne.jp/Denriku2001/hon\\_no\\_shigoto/hon\\_no\\_shigoto\\_0003.html](http://tamon.mdn.ne.jp/Denriku2001/hon_no_shigoto/hon_no_shigoto_0003.html)

---

◎「75歳・私の健康報告・原田 勉」

---

10月12日、今日は私の命日になるかも知れない日でした。

昨年の10月12日夕刻、突然の脳内出血を起こして丁度1年めです。その際は皆様にご心配をかけ、お見舞いのお手紙やEメールなど頂き有り難うございました。あの時読んだこんな句を覚えて頂いているのでしょうか「病みて知る厚き情けのEメール」本当に読者のお心が有り難かったものです。ご心配頂いた病気のその後の経過報告をいたしたいと思います。

あの時はすぐ入院治療したので故小淵首相のような不幸にはならず済みました。後遺症も少なく不幸中の幸いでした。今年の9月、定期診療で脳のMRI検査を受けた結果は、脳出血の痕跡も無く綺麗に吸収されていました。

今後は「疲れるような運動や無理な仕事をしないで血圧を低く抑えること、適度の運動を続けること」が注意されました。現在の血圧は上が140前後、下が80前後で安定しています。月水金は、農文協図書館に通勤しています。



仕事は図書閲覧者の相談相手と近藤理事長の秘書です。近藤康男著『三世紀を生きる』の原稿をワープロ入力して21世紀始めに出版の予定です。

今年は夏の暑さはこたえましたが、8月1日から毎日朝6時ころから大幅歩行20分とモーニング・ストレッチ10分、終わった後も散歩20分して朝風呂で汗を流す。ということは今も続けています。おかげで皮膚の艶もよくなり、食欲も出てきました。もっと早くからやれば良かったと思います。これから寒くなるので早朝の散歩を昼間に変えて血圧を下げるようにする予定です。

ついでに75歳の老化現象を報告します。63歳からC型肝炎と判定され、(30年前の輸血が原因)慢性肝炎の難病指定を受け東京都から医療助成を、久留米市から難病助成を受けています。毎月の診療と4カ月に1回のエコー検査を受け肝臓ガンの早期発見に努めています。72歳の時に動脈硬化による右目の眼底出血で右目は文字が読めなくなりました。左目だけでワープロや読書・校正などするので1時間以上は継続作業が出来ません。疲れ目の目薬を常用。老化のため耳がやや難聴、歯の治療もしばしば。筋力・体力・知力が衰え関節が固くなりました。脳の働きも鈍くなって研究会などで質問がすぐ出ない。家に帰ってから思いついて電話やFAXで追加質問するという具合。人の名前など忘れる、近年の出来事の記憶が薄くなったという自覚があります。こうして人間は衰えて行くものでしょうか。

薬の服用は降圧剤を朝と夜の2回、肝炎のためウルソ100を毎食後2錠。健康保持と未病治療のため鍼治療を週1回行って2年になります。あとは「廃用症候群」(筋力低下・関節硬化・無気力・鬱・受け身になるなど)にならないように、適度の運動と仕事を続け、「1日1日を楽しく暮らす」という先輩の助言を想いだし、1年経ったら何かの形が遺ればよいと願っています。

以上、現状報告を申し上げます。

---

<舌耕のネタ> 北朝鮮へ50万トンのコメ支援に思う

---

私は、もしも北朝鮮に生まれていたらと考えます。中国に行ったときも、もし私が中国に生まれていたら今どうして生きているだろうかと考えます。貧乏な幼少時代を経験したからでしょうか。

相手の国のことを考えたら、50万トンのコメ支援はとにかく良かった。政府・与党の一部には慎重論があったようだが、南北首脳会談を機に国交正常化

と関係改善の方向にあるとき、太陽政策の韓国に学ぶことは良いことだと思う。

さらに20世紀の歴史で忘れてはならないことに日本人はかつて朝鮮米のお世話になったことだ。ことに1930年代からは毎年朝鮮米を12万トンから15万トンに移入していた。内地米だけでは不足していたからだ。しかも朝鮮米は安かった。内地の庶民はその恩恵を受けていた。

しかし、立場をかえて朝鮮の港から積み出されるコメを見ていた朝鮮人は日本帝国主義が大陸侵略のために、その後方基地として朝鮮を支配し、米まで安く収奪したと考えていたことを忘れてはならないと思う。

コメの借りはコメで返しても良いのではないか。アジアは一つ。

---

<農業文化情報>山崎農業研究所 研究会「水問題」第2回懇談会

---

[http://www.taiyo-c.co.jp/yamazaki/yama\\_frame.htm](http://www.taiyo-c.co.jp/yamazaki/yama_frame.htm)

10月28日(土) 13:30~17:00。

「地域を支える近代的水利施設と旧来の水利慣行」長町 博氏。

「農業水利と国土水環境」佐竹 五六氏

参加費無料。10月27日までに電話かFAXで下記まで申し込む。

山崎農業研究所(新宿区四谷3-5太陽コンサルタンツ内)

TEL 03-3357-5916 FAX 03-3357-6420

---

<図書・情報>『遙かなる縄文の声』『縄文農耕の世界』の2冊

---

☆『遙かなる縄文の声』三内丸山を掘る(岡田康博著・日本放送出版協会刊970+税)

<http://www.trc.co.jp/trc/book/book.idc?JLA=00036057>

1992(平成4)年野球場建設地の遺跡調査が始まった時から8年、様々な発見が続き日本史を書き換えるにいたった三内丸山遺跡。その発掘を指揮し、情報発信してきた著者が全貌を整理した待望の決定版だ。「多い・大きい・長い」の三つのキーワードで素人にも分かりやすく書いてある。しかも遙かなる交易の道を求めてサハリンや中国東北部の遺跡や北米西北海岸のトーテムポールを訪ね、狩猟採集民との比較研究も視野にいれた縄文学の展望を語る。次の本とも合わせ一度は読んでおきたい推薦図書である。

☆『縄文農耕の世界』DNA分析で何がわかったか(佐藤洋一郎著・PHP研

究所 6 6 0 + 税)

<http://www.trc.co.jp/trc/book/book.idc?JLA=00036535>

著者には山崎農業研究所の『耕』に稲作起源とジャポニカ種について何度か書いて頂いたことがある。静岡大学農学部で植物遺伝学を研究、今では植物DNA分析の第一人者になられた。稲の祖先はアッサム・雲南では無く「長江中・下流域でジャポニカが生まれた」という説で一元論を覆したので有名。

この本では、農耕文化は従来弥生時代の水田稲作の渡来が起源とされてきた。だが三内丸山をはじめ縄文遺跡で発掘されるク리는栽培されたものではないか？著者によれば「ヒトの手が加えられるにつれ植物のDNAのパターンは揃ってくる」という。その特性を生かしたDNA分析によって、不可能とされていた栽培実在の証明に挑む。本書では、定説を実証的に覆した上で、農耕のプロセスからそれがヒトと自然に与えた影響まで言及している。植物遺伝学から問う新縄文農耕論として高く評価したい。

---

<農業・情報> 「人と土の関わりを作る」その1 環境クラブ 増山博康

---

人と土の関わりを作る (その1)

環境クラブでは、いくつかの目標を掲げていますが、そのうちの 하나가、「人と土の関わりを作る」ことです。

これから、この「暑さも寒さも」の連載の中で、何回かに分けて、このテーマについて、環境クラブの考え方をご紹介していきたいと思います。

環境クラブには、時々、中学生が見学にきますが、10月初めに、社会科見学に来た中学生が、「環境を守らなくても、特に、ふだんは差し支えないように思う。今日来たのは、何か変な先生がいて、今年からは、『自然との共生』をテーマにして社会科見学をやるべきだと主張したせいで」と言っていました。

この中学生の発言は、学校現場のある意味での「実態」が見えて、面白かったのですが、私は、こういう話しをしました。

「今、人生は、80年だ。80年あれば、いろいろなことが起きる。

僕が子供の時、電話は隣りの家に借りに行った。本当に小さな時は、家にテレ

びもなかった。東京でも裏通りは、舗装道路でなかった。たった30年で、こんなに便利になったと言うことは、逆もありうる。

君らの学校のあったあたりでは、60年前の戦争では、大空襲があって、8万5千人が死に、焼け野原となって、ビルはひとつもないありさまだったと言う。

80年生きると言うことは、その間に、そういういろいろなことが起こりうるということだ。

今のアフガニスタンでは、戦争の後、難民になった人が、木を伐採して、お金を手に入れようとした結果、山崩れが頻繁に起きている。

明治時代のはじめの日本も同じようなことが起きた。大日本帝国憲法が、明治23年に出来たと言うことは、江戸時代が終わって、すぐに明治の新体制が出来たわけではなく、新しい体制が固まるまで、ものすごい年数がかかるということだ。

過剰な伐採を抑えるための「太政官布告」と言うおふれは、明治13年にできた。それまでは、お殿様のおふれがなくなった後、無法地帯だったため、木を切ってお金を手にしようとする人がたくさんいて、山崩れが起きた。

今、全国の山で山崩れの場所が拡大していると言うことが、衛星写真でも確認され、学会でも報告されている。このままなら、みんなが大人になる頃に、日本中で山崩れが起こり、たくさん家が流され、人が大勢死ぬかも知れない。

酸性雨で土が駄目になって、森がなくなった場合は、木を過剰に切った時よりも回復は大変だろう。君らの子供が大人になるまでかけないと、回復しないかも知れない。

確かに、君の言う通り、『環境』を守らなくても、ふだんは、差し支えないかも知れない。

しかし、最初に言ったように、80年生きると言うことは、その間に、いろいろなことが起きると言うことだ。酸性雨やゴミの問題を放置した場合、20年後、30年後、君が40歳、50歳になった時に、大変なことが起きるかも知れないことを考えてみよう」。

中学生達は、「え、携帯電話がなくなっちゃうこともあるのかなあ」とか、いろいろ話していましたが、「ふだん、差し支えない」から、どうでもいいわけではなく、「将来の見通し」を考える必要があると言う話しの趣旨は、どうやら飲み込んでくれたようでした。

.....

ところで、この話しには、「将来の見通しを考える」と言う他、もう一つのメッセージを伝えようとしています。それは、「地球環境」そのもの、「自然環境全体」と言うのは、「みんなの生存基盤であり、みんなで維持しなければならない」と言うことです。

この「みんなのもの」を、ちょっと難しい言葉で、「社会的共通資本」といいます。環境クラブの考えでは、「土への関わり」は、この「社会的共通資本（みんなのもの）」である「地球環境」そのもの、「自然環境全体」の維持に参加することなのです。

[続く]

環境クラブホームページ

<http://www.netlaputa.ne.jp/~ecoken/>

— P R —

■■■■■

劇団文化座 巡回公演

■■■□

原作 芦原すなお（河出書房新社刊）

■■□□

脚本 小松幹生 演出 佐々木雄二

■□□□

『青春デンデケデケデケ』

□□□□

公演期間 9月～10月＝九州 11月＝沖縄・広島・金城

<http://bunkaza.com/dendeke2000.html>

— P R —

●メール送付の際の注意案内↓

<http://nazuna.com/tom/denshico.html#mail>

■山崎農研発行の書籍のご案内

[http://www.taiyo-c.co.jp/yamazaki/yama\\_books.htm](http://www.taiyo-c.co.jp/yamazaki/yama_books.htm)

---

●協力をいただいているサイト紹介コーナー

「農文協ルーラルネット」

<http://www.ruralnet.or.jp/>

「山崎農業研究所」

[http://www.taiyo-c.co.jp/yamazaki/yama\\_frame.htm](http://www.taiyo-c.co.jp/yamazaki/yama_frame.htm)

「劇団文化座」

<http://bunkaza.com/>

-----

「75歳の伝記ライター 原田 勉」ホームページ制作管理  
internet SOHO なずなコム

<http://nazuna.com/>

---

ここまで読んでいただきありがとうございました。

■ご意見・ご感想は、Eメール

<mailto:tom@nazuna.com>

または、電耕掲示板

<http://www62.tcup.com/6201/tom.html?>

までお願いします。

『電子耕』は、2つのルートで配送しております。

『まぐまぐ(ID=14872)』

<http://www.mag2.com/>

『Macky !(ID=1283)』

<http://macky.nifty.com/>

SPECIAL THANKS to INTERNET JAH

<http://www.jah.ne.jp/>

<本誌記事の無断転載を禁じます>

\*\*\*\*\*

隔週刊「75歳が送る農業文化マガジン『電子耕』」 第43号

--農業・健康・食・図書・人物情報--

バックナンバー・購読申し込み/解除案内

<http://nazuna.com/tom/denshico.html>

2000.10.12（木）発行 東京・ひばりヶ丘 原田 勉

<mailto:tom@nazuna.com>

\*\*\*\*\*発行部数 1301+71 部\*\*\*\*\*ここまで『電子耕』\*\*\*\*\*